## マスターズのページ青春の人は炊ゆ

### 続・2018国際ゴールドマスターズ奈良大会

# 記憶と記録に残る楽しい大会だった

写真提供:日本マスターズ陸上競技連合 撮影者 辰巳利之・高見恭子

暦は2018年最後の12月。俗に言う師走だ。今年はイベントも世界マスターズ陸上をはじめ、全日本マスターズ陸上、5年ぶりの水・陸共催となった2018国際ゴールドマスターズ奈良大会や都道府県対抗全日本マスターズ駅伝など、ビッグな催しが次々に行われた。それぞれの大会に参加されたシニア・アスリートの思いは悲喜こもごもだったはず。1年を振り返り、新しい年に向けて新たな目標を。今月は2018国際ゴールドマスターズ奈良大会の続編をお伝えする。

#### 男子 MVP は秋山さん

男子の MVP は M55・400m に 55秒 30の日本マスターズ・クラス別日本新の力走をした秋山俊二さん (56歳・香川) に決まった。

「今シーズン最後の競技会だから、気合を入れて走った結果がうれしい記録につながった。体調はまずまずだった」と秋山さん。

秋山さんは旧姓・羽原。高校時代に 800mでインターハイに出場したことはあ るが、決勝進出はできなかった。同大に 進んでからは長距離を。だが、「威張れる 成績はありません」。卒業後は陸上と縁が



なかったが、47歳から再び「かつての青春をかけた陸上へ」の思いがよみがえった。

当初は800mと400mに出場。47歳でのM45・800mは2分06秒02だった。M45クラスの最終年齢49歳になったときの800mは2分06秒35、400mが52秒46で2011年度のランクでは両種目ともトップ。ところが50歳になったM50の800mでは2分04秒87、400mで52秒87と800mではタイムが上がっている。これらのタイムはM50クラスの日本記録となっているのだ。

M55ランクの年齢になって「400mに 絞るか」と決めたのは3、4年前から座 骨神経痛に悩まされたのが理由。この悩みの種が近年になって取れた状態になり、エンジン再開となった。55歳で400m56秒39の日本記録をつくったかと思えば、56歳になって55秒60まで上げた。走るたびにタイムが上がり、「今回の55秒30は今季5回目の更新でした」。秋山さんは「2019年の全日本マスターズ40回大会に向け、もう一踏ん張りします」と言い切った。

#### 親子鷹の渡邉さんら TV に

ゴールドマスターズ奈良大会の陸上の 模様が11月19日、よみうりTV(関西 地区)午後4時47分からの『かんさい 情報ネットten』で取り上げられ「ノゾ キミ・年を取っても挑むワケ 輝くシニ ア・アスリート」として、茶の間へ届け られた。 さまざまな映像の中で主に焦点が当てられたのは、12月号で紹介したW75・立五段跳に $8\,m71$ で優勝した渥美裕子さん(75歳・滋賀)と、 $M70\cdot60$ mほかに出場した渡邉和生さん(71歳・大阪)だった。

渥美さんについては日々のトレーニング のあり方と、食事メニューなどを紹介。特 に食事のメニューについてはアスリートだ けでなく、広く一般の人にとっても健康食 として参考になりそうな内容だった。

一方の渡邉さん。父親は今回姿を見せなかったが、M100の60m、砲丸投で"勇姿"を見せている101歳の源太郎さん(大阪)だ。源太郎さんと和生さんのマスターズ陸上における親子鷹の姿勢をとらえていた。

今大会の和生さんは「おやじの分まで 頑張るぞ!」と、M70・60m 8 秒89 (+ 1.9) の 2 位、100m14 秒15 (-0.1) で 3 位、200m30 秒09 (-0.1) の 2 位の 成績を挙げた。だが、和生さんは「順位 はうれしいとしてもタイムがね」。

それは父・源太郎さんが71歳のときのM70クラスでのタイムと比べてのこと。当時60mはなく、源太郎さんは100mを70歳で14秒10、71歳では14秒5、200mは70歳のときに29秒8だが、72歳で29秒6だった。源太郎さんのすごさは72歳の第10回記念和歌山大会(1989年)のM70・400m 1分09秒65(69秒65)で走り、自身の年齢以下でゴールしたことだ。

レース途中、無酸素状態になる400m での"快記録"を出すとは。今大会は出 場を回避したが、まだまだ意欲は十分。 来シーズンを待ちたい。和生さんはこの 偉大な父親のタイムを目標に追い掛ける。

#### 中村さんの旅日記

先述のよみうり TV における奈良大会 の映像の中で、M85・4×100mRが1 分07秒03の世界新をマークしたカルテ ットの力走ぶりが映し出された。

同じ会場でレースをした中村勝利さん (76歳・大分)から、大会事務局に「大 会参加・旅日記」と題した感想文が寄せ られた。

中村さんは本大会でM75・60m 8秒 93 (-0.2)、100m14秒05 (+1.3) = 以上大会新、200m30秒62 (-2.0) と、 3種目で勝った人物だ。自身のレース内 容とは別にエキシビションのM45と M85の両4×100mRについて「いずれ も世界記録の更新を懸けた期待の競技| と前置きしておく。

「M45クラスには武井壮さん(45歳)、 朝原宣治さん(47歳)ら有名人のほか、 諸久里武氏(46歳)、佐藤政志さん(46歳) など、国内トップクラスのメンバーをそ ろえて挑戦。が、2走から3走へのバト ン引き継ぎに失敗。3、4走は走らない まま終了、残念。でも沢山の応援をもら って、選手たちは晴れ晴れとした顔をし ていたし

「85クラスは見事に世界新! いずれ も感謝をありがとう。主催者の心憎くも 楽しいプログラムだった | (一部割愛)。 自らのレースは最初の100mの前に両足 の薬指に水膨れができるアクシデントに 見舞われた。9月の全日本で三冠を達成 した鈴木勲氏(77歳・東京)との顔合 わせとなったが、勝つことができた。鈴 木氏は14秒63だった。中村さんは13秒 73の日本記録を持ち、更新を目指した が及ばなかった。

次のレースは最終日の200mと60m。 200mは向かい風2mでタイムをロス。 ここも鈴木氏の31秒42を上回った。が、 「せめて29秒9の大会記録は破りたかっ た | のに、30秒台に終わった。向かい 風のせいにはしたくないが、目標に達せ られず気落ちした。

60mは今年最後の公式レースなので、 悔いのない走りを、と思いながらスター ト。前半は鈴木氏がリードしたが、残り 10mで抜き返した。鈴 木氏からの勝利を祝福 してくれた言葉に感 謝。どうしても勝てな かったライバルに初め て勝てて「うれしかっ たし、記念すべき大会 となったし

初めは興味のなかっ た奈良大会だったが、 レースのほか、「古都奈 良しへの郷愁にかられ

て、奈良行きを決行。だが、来てみると、 レース&観光を兼ね「来てよかった」。 中村さんの大会参加・旅日記はA 4版5 枚にパソコンでつづられ、最後に「奈良 マスターズ陸上連盟関係者には大変お世 話になりました。ありがとうございまし た」で締められている。中村さんもご苦 労さまでした。

#### 執念は実った。渡川さん

W75・走幅跳に出場した徳島の渡川 孝子さん(75歳)。3m47の日本記録更 新に意欲を燃やしての跳躍だった。慎重 に助走を起こした1回目は3m13(-1.1) にとどまった。「それでは」と余裕 を持って跳んだ2回目の試技は飛距離が 伸びて3m50 (+1.9)。見事な新記録。 3年ぶりに書き換えた。

「よっしゃ、やった!」と喜びを表し、 次の3回目も3m50 (+0.3)。 力みすぎ た最終4回目は3m15 (-1.3) で競技 を終えた。

「今年のラストゲームで念願がかないま した。徳島から来たかいがありました | と喜びを口に。

それもそのはず。11月号で既報通り、 渡川さんは9月の全日本鳥取大会で3m 40と、日本記録に7cm届かなかった。そ のときの悔しさを晴らすため、奈良大会 では得意の100mなどはキャンセル。走 幅跳一本に絞って挑み、執念を実らした。

#### 跳躍から投てきの由川さん

M80クラスの投てき3種目に登場し た由川昇さん(81歳・三重)は、円盤 投17m58で3位、ハンマー投30m10、 やり投24m30でともに2位に食い込ん



大分から参加した中村勝利さん(右)。「大会参加・旅日記」をつづった

だ。マスターズ陸上に足を踏み入れたの は還暦からだ。

1960 (昭和35) 年に三重大を卒業後、 中学校教諭を経て高校の先生へ。高校は 伊勢高。陸上部では顧問を務めた。部員 のなかで話題になったのが、棒高跳の喜 田武志氏。1963 (昭和38) 年に当時3 年生でインターハイの棒高跳に出場、ま だ珍しいグラスファイバー・ポールを手 に、4m41の超高校級の記録で優勝した。 いわばグラスファイバー・ポールでの優 勝第1号となったのだ。

喜田氏にとっての恩師・由川先生は走 幅跳、三段跳が専門だった。ただ、国体 に備えてやり投をやったことも。走幅跳 は6m82、三段跳が14m56がベストだ った。だが、33歳のときに交通事故で 右肩を痛め、45日間の入院を余儀なく された。回復後、指導者としての道を歩 んでいたが、再度三十路(60歳)の世 代になってマスターズ陸上の仲間に。

投てきに絞ったのは「寿命に関係なく、 年を取ってもできるから」。80歳の2017 年の記録は円盤投29m02、ハンマー投 31m96はM80ランク2位、やり投28m 13は同3位。今年6月の大阪マスター ズ大会では敢闘賞を手にした。「新しい 2019年も旧年並みのことはやりたい。 それなりの練習はやっています」と意欲 を燃やしている。

#### 全日本マスターズ駅伝 (速報)

第31回都道府県対抗全日本 マスターズ駅伝は11月18日、 愛知県長久手市で行われ、男子 は愛知、女子は兵庫、エルダー は鳥取がそれぞれ優勝した。(次 号で詳細)